

第2次静岡市生物多様性地域戦略(案)パブリックコメントの結果【自由記載欄の集計表(問3)】

資料4

<集計表の主旨>

問3の自由記載欄にご意見をいただいた方について、市の考え方を示しました。

<意見の取り扱いについての分類>

- A: 計画に盛り込み済
 - B: 計画に反映する
 - C: 今後の取組の参考
 - D: 計画に反映できない
 - E: その他
- …計画に既に盛り込み済みである意見
 - …その主旨を計画に新たに反映する意見
 - …計画には反映しないが、今後の参考取組の参考とする意見
 - …検討した結果、計画には反映できない意見
 - …上記取扱い以外の意見

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A: 計画に盛り込み済	B: 計画に反映する	C: 今後の取組の参考	D: 計画に反映できない	E: その他
1	4	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	保全活動	子どもさんが関わる出来事が多いようですが、年配の人が関われる身近な小さなことがありますら教えてください。	御意見の趣旨を踏まえ、本編P59「方針4-3(1)」の「生物多様性や環境に配慮したライフスタイルの促進」の中に「個人で簡単に取り組みことができる行動の情報発信」を追記し、環境情報サイト「しぜんかんきょうてちょう」等にて、簡単にできる取組について情報提供していきます。		○			
2	8	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	普段の生活でできないことをやってみたい。	本編P52「方針2-1(1)」、「方針2-2(1)」に記載のとおり、自然を身近に感じることのできる自然体験等の環境学習会の機会を提供していきます。実施内容につきまして、市民の方が楽しんで参加できる企画を検討してまいります。	○				
3	9	計画全体	市政全般	生物多様性全般	棚田や里山整備、農業・漁業のように、生物の多様性を「人の暮らし」とからめなければ駄目だと思う。	本編P56「方針3-2(2)」に記載のとおり、農業、漁業、林業と絡めた環境教育や活動を展開し、生物多様性の主流化を推進してまいります。また、来年度供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)では、農業と地域の環境とを絡めた事業展開を予定しております。	○		○		
4	9	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	親子で参加できるものが入口としてはよい。	本編P55「方針3-1の(1)」に記載のとおり、保護者や地域のみならずに向けた環境学習会の開催も想定しています。親子が楽しんで参加できる事業を検討してまいります。	○				
5	9	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	自然や農業体験を通して婚活イベントも兼ねればなおよし。宣伝や金になれば協力者も次々と現れるはず。	関係課や市内大学、NPO等とも連携し、他の分野と絡めた事業展開を検討し、市民の皆さんが楽しんで参加できる企画を検討してまいります。			○		
6	9	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	移住促進キャンペーンもからめるとよい。	里地里山に移住し、活動されている方もいらっしゃいますので、このような方々とも連携して、東京有楽町に設置した静岡市移住支援センターにおける移住相談業務等を進めていきたいと考えております。			○		
7	9	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	食べ物からめれば、食育や地域の魅力発信につながると思います。金が儲かれば生産者も万々歳。	みなさんが普段美味しく召し上がっている農産物や魚介類が生物多様性の恵みであることを知ってもらうことが、大変重要であると考えております。地域の食材をテーマに、生物多様性について考えるきっかけとなるような企画を検討してまいります。また、来年度供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)では、農業と地域の環境とを絡めた事業展開を予定しております。			○		
8	9	計画全体	市政全般	生物多様性全般	静岡市はとにかく予算をかけないで企画を立て、そして予算をかけても見事に失敗するケースが多いので(失礼)、潤沢に人手と予算を確保してください。	生物多様性の保全に向けては、麻機遊水地など、身近な自然と触れ合える公園や河川の整備をはじめ、学校での環境教育など、全庁的に様々な取組を進めています。今度、これらの取組が一層充実するよう、本地域戦略の進捗管理を行ってまいります。					○

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
9	9	計画全体	市政全般	生物多様性全般	企画は40歳までの若手で考えるべきです。40以上は時代に取り残された老害ですので排除すべきです。	市役所の業務の多くは、若手、中堅、監督者がチームとなって進めています。引き続き若手職員に経験を積ませ、より活躍できる機会の創出に努めてまいります。					○
10	9	計画全体	市政全般	生物多様性全般	広報はネットを中心に発信してください。紙は若者は絶対に見ません。老人向けイベント(間伐材で自分の棺桶を作ろう！など)なら新聞やテレビを活用ください。	生物多様性に関する情報について、広報紙だけでなく、市の運営する環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」や市のツイッター、LINE等を利用し、様々な媒体を組み合わせた効果的な情報発信に努めてまいります。	○		○		
11	11	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	静岡市の在来種、生物、樹木等の復活・再生等の活動。掘り起こし、紹介、アピール。	本編P54「方針2-2(2)」に記載のとおり、自然環境に関する様々な活動への市民参加を促進するとともに、各種団体の活動内容を広く発信していき、環境保全活動に参加しやすい体制を整備していきます。また、南アルプスユネスコエコパーク区域内で自然植生の再生、創出を検討しておりますので、御意見の趣旨を踏まえながら事業を計画してまいります。	○		○		
12	12	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	子ども達が問題意識を持てるような実体験をもととした環境イベント	御意見の趣旨を踏まえ、子どもたちが楽しんで参加し、自然環境について考えるきっかけとなる事業を検討してまいります。			○		
13	13	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	Instagramで自然物(ドライフラワー、フラワーアレンジなど)を使った作家さんが静岡には多くいらっしゃいます、静岡市の人材を活かしながら子どもと一緒に活動できる場を作り、ふるさとを大切に思う心を育てていきたいです	本編P55「方針3-1(1)」に記載のとおり、環境学習会、イベント等における人材活用を通じ、環境教育に取り組みやすい体制を整備します。ご意見の趣旨を踏まえ、同施策内に、「環境学習会、イベント等で活躍できる人材の発掘」を追記します。	○	○			
14	14	戦略4「生物多様性を評価する」	4-1多様性評価のための指標整備	生きもの調査	身近な場所に生息する生きもののマップ作り	市内の身近なハイキングコースで見られる生きものを調査し、「いきもの散策マップ」127コースを作成しました。今後はいきもの散策マップを利用したモニタリング調査に取り組みます。また、子どもから大人まで参加できる生きもの調査を実施し、調査結果を環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて公表していきます。	○		○		
15	14	戦略4「生物多様性を評価する」	4-1多様性評価のための指標整備	生きもの調査	生きものを調査した内容をホームページや広報誌に掲載してほしい	新規事業として、子どもから大人まで参加できる生きもの調査を実施し、調査結果を環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて公表していく予定です。また、ハイキングコースで見られる生きものについて調査し「いきもの散策マップ」も作成しました。環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」に掲載しておりますので、ぜひ御覧ください。	○		○		
16	15	計画全体	市政全般	生物多様性全般	目的は生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策を総合的・計画的に推進することにより豊かな生物多様性を保全し、その恵を将来にわたって享受できる自然共生社会の実現を図り、合わせて地球環境保全に寄与することであると思う中、時間と市民の協力のもとがんばって行ってもらいたい。	「生物多様性」を幅広く市民の方に知ってもらい、豊かな自然が将来にわたって育まれるために、まずは市民の方が楽しんでイベントや保全活動に参加できる事業を展開していきます。					○
17	16	計画全体	説明・用語	その他	リーディングプロジェクトとか、「PDCA」とか横文字が多いと調べるのがメンドクサイので日本語でお願いしたいです。	日本語表記をカッコ書きで追記すると共に、分かりやすい表現となるよう努めます。		○			
18	17	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	学校独自で進める環境教育において、指導者の派遣や活動費用の支援などをお願いしたい。	本編P52「方針2-1(1)」等で記載のとおり、学校や子ども園等に環境学習指導員の派遣を実施しております。内容は御希望に合わせて実施可能であり、指導員の謝金は市で負担します。ぜひ御活用ください。また、放任竹林対策の活動団体が行う、環境教育事業に対する支援も来年度から実施しますので、放任竹林をテーマにする際には、ぜひお問い合わせください。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
19	18	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	イベントには参加したくないが、普段から取り組める活動には参加したい。その際、それらに取り組むことで、どれだけの効果があるのか、示してもらえると、やる気が出ると思う。	例えば、放任竹林を整備して、伐採した竹の本数や整備面積等を示すことはできませんが、整備により生物多様性の維持・向上がどれだけ図られたかを説明することは非常に難しく、現在の課題でもあります。また、様々な活動があり、それぞれの効果を一概に表すことは困難ではありますが、本地域戦略で取り組んだ成果については、できるだけ市民の皆さんに分かりやすい表現で伝えていきたいと考えております。			○		
20	20	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	近頃、子どもたちは虫も触れないことが増えております。虫取りをしても命を粗末に扱う始末。生きるために生存しているということを学んでほしいです。テレビでも活躍されている方に講座など聞いてもらえば興味もわくかとおもいます。	自然観察会や生きもの調査、講演会等で、マスコミにも取り上げられる著名な方に御指導、御参加いただき、事業を進めております。今後、このような情報の積極的な発信や、広く活躍されている方との連携強化、市民の方が楽しんで参加できる事業展開に努めてまいります。			○		
21	22	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	その他	その地域にすんでいる生き物についての案内看板を見かけることがあるが、それをもっと充実させて欲しい。生き物散策マップを作成しているエリアは最低限案内看板も同様以上のものを設置して、現地でそのエリアの特徴やすんでいる生き物がどのようなものか市民にわかるようにしてほしい。	看板の設置には、土地所有者の協力や、劣化・汚損対策等も必要となってくることから、いつでもどこでも情報を取得できるアプリケーションの活用等について検討してまいります。			○		
22	22	パブリックコメント	その他	サブタイトル	「第2次静岡市生物多様性地域戦略」という名称は使わずにサブタイトルで想定しているようなものをそのまま正式名称で使うぐらいでもよいかと思う。	御意見の趣旨を踏まえ、市民の目に留まることの多いリーフレット(概要版)は、サブタイトルをメインに配置して作成します。		○			
23	23	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	水の循環を知る事により、水の大切さを知る事になる。	御意見の趣旨を踏まえ、本編P43に「森川海のつながり」についてコラムを掲載しました。また、イベントや講座、ホームページ等を通し、情報発信していきます。		○	○		
24	26	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	清水森林公園「やすらぎの森」は、旧清水市が(今で言う)SDGs推進の為に、あらかじめ里地里山を内包する設計を取り入れた日本でも珍しい先進的スタイルの公園です。現状、合併により行政単位の拡大により行政の目が届きにくくなったからでしょうが、設立30年以上の公園は老朽化が進み、本「第2次静岡市生物多様性地域戦略(案)」にも公園を活用した環境教育推進の活動などが一言も触れられていないのは淋しいばかりです。しかし地元では、当NPO法人が「公園みがき活動」「里地の休耕田の再利用活動」「環境保全を来園者へ広報する活動」を継続し、常葉大学社会環境学部の小杉山ゼミによる公園の生物調査も5年目に入り、多くの成果を研究発表していただいております。 その中で「やすらぎの森」には食物連鎖の中間生物としての「カエル」が、絶滅危惧種を含めて9種類も存在している事実が発見され、「カエル王国」として楽しむ環境教育活動を、当NPO法人と、公園の指定管理者の清水森林組合、常葉大学がともに進めているなどは代表的な成果と言えます。また、やすらぎの森から歩いて10分もかからない「西河内小学校」は、2年後には小中学校合併による空き校舎を、「自然の家」に再活用する計画も進んでいます。 清水森林公園「やすらぎの森」は市街地から車で3~40分、ウィズコロナの昨今の週末はとみに多くのファミリー、カップル、グループが自然を親しみに来園します。まさしく、里地里山を保全しつつ、自然環境教育を身近なモノとして実践するに絶好のロケーションを持っています。 このように「やすらぎの森」は環境教育を進める為の下地ができていますが、民間だけの奮闘努力では限界が生まれているのも事実であり課題とも言えます。静岡市におかれましても環境保全課、中山間地振興課、教育員会の垣根を越えたプロジェクトとして、清水森林公園「やすらぎの森」を環境教育のメッカに育てるプロジェクトとして推進して下さる事をぜひお願いいたします。	自然と触れ合える場所として、清水森林公園「やすらぎの森」は重要な場所です。関係課と連携し、市民の方が気軽に自然に触れ合える場所として、事業の展開や、情報発信を検討してまいります。			○		
25	27	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	勤務している子ども園は自然豊かな山間にありますが、「虫が嫌い」「手が汚れるから草・花・土は触りたくない」という子がいます。しかし、先日環境学習指導員さんと園外で活動したところ、自分から手を伸ばして関わろうとする様子がありました。自然に関する知識が豊富で、遊び方を熟知した方に教わる効果を実感しました。ぜひ継続的に派遣を依頼し、幼児期から自然のおもしろさ(十こわさ)に触れる機会を設けようと思いました。教育に力を注いでほしいです。	今後は学校だけでなく、子ども園等にも積極的に環境学習指導員を派遣し、多くの子どもたちに自然に触れ合い、様々なことを感じてもらえるよう努めてまいります。引き続きの御活用をよろしく願います。 また、来年度より子ども園向けに「簡単に取り組める自然と触れ合うプログラム」を季節ごとに提供していくことを考えております。ぜひ御活用ください。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
26	29	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	竹林整備団体情報交流会開催	本編P57「方針3-3(2)」に記載のとおり、放任竹林保全活動団体間の情報共有に取り組んでまいります。情報交流会についても開催を検討しておりますので、開催の際には、ぜひ御参加ください。	○				
27	29	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	竹製品(日用品)ワークショップ	意見No.26「竹林整備団体の情報交流会」と併せ、検討してまいります。			○		
28	30	戦略4「生物多様性を評価する」	4-1多様性評価のための指標整備	生きもの調査	アプリや紙を利用し、駿府城公園内(場所はあさはたや日本平動物園などでも)をゲーム感覚で探す。写真をとってポイントGETやめずらしい植物や虫なども取り入れ、子どもから大人まで参加して楽しいものに。発見するとその虫や植物についての説明や、市内でよく見られる場所等、関連づければさらにいいかと思います。NG行為(例:たばこを川に捨てる、BBQの後川で洗うなど)なども伝えるとさらによい!!	市のイベント等に合わせ、ゲーム感覚の生きもの調査の実施を検討しております。子どもたちが気軽に参加でき、自然に興味を持てるような取組になるよう努めます。			○		
29	31	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	キャンプをしながら学ぶイベント	アウトドアでのアクティビティをきっかけとして、生物多様性に興味を持ってもらえるような企画を検討してまいります。			○		
30	35	パブリックコメント	その他	その他	チラシの中ですが、ご意見・アイデアお待ちしておりますのページにおいて、「意見募集用紙はこちら」「(2)各区役所の市政情報コーナー」の各区の場所の表記が少し上にズレています。	印刷物等の配布に当たっては、校正に万全を期すようにしてまいります。御指摘ありがとうございます。					○
31	36	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	保全活動	河川清掃にこれまで参加させていただいております。これからもよろしく願います。	河川清掃活動への御参加ありがとうございます。静岡市の清流、豊かな駿河湾の保全のため、今後ともご協力よろしく願います。					○
32	41	パブリックコメント	その他	その他	宛が同じ係になっている募集が2件。応募用紙に主語がない。市が聞きたい主旨を明確にして依頼すること。	両計画が差別化できるよう、冊子やリーフレットの色味等を工夫したところですが、同時期に2つの計画を改定しているため、パブリックコメントの趣旨が分かりにくくなってしまい、申し訳ございませんでした。			○		
33	42	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-3外来種の把握・防除	理解促進・啓発活動	地域住民が市の音頭で駆除作業を行うことで特定外来種を知ることができ、環境保全活動への参加意識を高めることができる。特定外来種を庭で育てる人も減るでしょう。	本編P51「方針1-3(1)」に記載のとおり、市民参加による外来種防除活動を実施していきます。毎年、地域のみなさんや大学、高校、中学校にご協力いただき、麻機遊水地においてカミツキガメの生息調査を実施しております。このような活動を積極的に周知し、より多くのみなさんの参加と意識啓発につなげてまいります。また、地域の清掃活動やイベントに合わせた防除活動も各地で展開していきたいと考えています。	○		○		
34	43	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	アキュラホームの木のストローが手軽に作成でき、プラごみ削減への意識づけになり良いと思います。(今年4~6年生が体験させて頂き、とても良かった)	木のストローの作成は、「森林の水源涵養機能の重要性」や「海洋プラスチックごみ問題」を考えるきっかけとして、良い題材であると考えております。学校への情報提供やイベント等での活用を検討してまいります。			○		
35	43	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	自然体験	水辺の楽校でのイベント(自然ふれ合い体験等)	「うしづま水辺の楽校」は地元の有志の方で結成された「うしづま水辺の楽校世話人会」の方々の運営により、毎年開催されています。今年度は残念ながらコロナウイルスの感染拡大により中止となりましたが、また開催できる状況になりましたら、ぜひ御参加ください。					○
36	45	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	子ども達も楽しめて参加できるイベントがあれば良いと思います。(具体的には思いつかないのですが・・・)アウトドア系のイベント等・・・	アウトドアでのアクティビティをきっかけとして、生物多様性に興味を持ってもらえるような企画を検討してまいります。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
37	46	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	現在、クルポ(県?)に登録していて、環境に少しでも優しい活動をしながらポイント集めを楽しんでいます。でも、なかなか当選せず、最近はやる気を無くしているのも事実です。街中限定でも良いので、環境に良い事したらポイントをもらって、街中のお店でそのポイントを使える・・・というようなものがあれば、おまちの活性化にもつながると思います。	静岡県では「クルポ(ふじのくにCOOLチャレンジ)」により、地球温暖化防止につながる取組に対し、ポイントを付与する事業を実施しています。本市でもポイント場所の追加や、ポイント獲得イベントの追加を検討してまいります。			○		
38	48	その他	その他	その他	夜間の地域の見直し(巡回してみる)	令和元年に自動撮影カメラを利用したのアライグマ生息状況調査を行ったほか、定期的な調査や市民のみなさんからの通報等により、現状の把握に努めているところであり、その状況に応じ、必要な対策を検討してまいります。			○		
39	48	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	市民の防災訓練のように、多くの人がごみ拾いやノーカーデーを経験して、考える日と内容を設定し実践する。	市民の方が楽しんで参加できる事業を展開し、自然環境について考えるきっかけを創出していきます。			○		
40	50	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-1生きものの生息・生育場所を守る	保全活動	蛍、アサギマダラ、カジカガエルなどの生物を保護し増殖する指導をお願いしたい	保全活動を実施している団体に対し、専門家やその分野に詳しい方などを市で紹介するなど、コーディネーターの役割を果たせるよう努めます。御要望がありましたら、ぜひ御相談ください。			○		
41	51	計画全体	生物多様性全般	成果指標	国家戦略の改定でも「2030マイルストーン」が議論されていますが、生物多様性は、因果関係やエビデンスの複雑さから「目標・進捗・指標」を設けることが非常に難しい分野であるとは思いますが、認知度や取り組む市民の割合など、何かしらの数値目標が計画上に記載された方が市民理解が高まるのではないかと思います。	御意見の趣旨を踏まえ、成果指標について追記します。また、リーディングプロジェクトの進捗状況については毎年「静岡市生物多様性地域戦略専門家検討委員会」で進捗管理し、「静岡市環境審議会」に報告後、ホームページにて公表します。		○			
42	52	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-3外来種の把握・防除	環境教育	静岡市には身近に触れることができる川や池などがある。そこに住む生き物の中に、近年テレビなどでも取り上げられている外来生物が在来生物を捕食して絶滅が危惧されている。どうにかして絶滅を食い止めてはいけないので、市民が参加して在来種を守る運動を子どもたちの学校教育のカリキュラムに含めて底辺を広げられれば良い計画になると思います。	意見No.33の回答にありますとおり、学校との連携による外来種調査を実施しています。このような取組についての情報を教育委員会等にも積極的に周知するとともに、本地域戦略と同時期に策定する「静岡市環境教育行動計画」に従い、まずは部活動等の課外活動を通じた子どもたちの活動への参加、教育現場との連携強化から始めていくことを考えています。			○		
43	53	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	自然環境の創造として、ピオトープ作りなどをやってみてはどうか	中島浄化センターにピオトープを併設しているほか、来年度共用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)はピオトープ的要素も取り入れた整備をしております。今後、これらを活用した環境教育や保全活動等を検討してまいります。			○		
44	53	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	市の中心地である谷津山が竹に浸食されて数十年も放置されているが、多様性を言う行政側の怠慢でしかない。景観的にみっともない！！	私有地である谷津山の保全は、一義的には所有者の責任になりますが、竹害に悩まされている地域を中心に、竹林整備がされています。また、市ではこのような活動を支援しており、活動の持続性が高まるよう、今後も継続した支援を実施するとともに、新たな担い手を育成していくことも考えております。	○				
45	53	計画全体	生物多様性全般	その他	これまでの多様化の活動結果の評価がされていない？	本編P39「1)これまでの生物多様性地域戦略の評価」にて記載のとおり、前戦略の目標である「生物多様性の考え方の普及と保全・再生への着手」に対しては、認知度の向上や南アルプスユネスコエコパークの登録、麻機遊水地や放任竹林での保全活動の活発化が成果として挙げられます。一方、「2)静岡市の生物多様性を取り巻く主な課題」に記載のとおり、課題も多く積み残しています。第2次地域戦略でこれらの課題を解決するために、新たに幼児期からの環境教育や、市民参加の生きもの調査等を含めた戦略及びリーディングプロジェクトを展開してまいります。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
46	53	計画全体	生物多様性全般	成果指標	本事業が完了時の数値目標が全くない。文言だけでは観念的かつ自己満足的になり客観的な評価にならない。	御意見の趣旨を踏まえ、成果指標について追記します。また、リーディングプロジェクトの進捗状況については毎年「静岡市生物多様性地域戦略専門家検討委員会」で進捗管理し、「静岡市環境審議会」に報告後、ホームページにて公表します。		○			
47	55	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	子ども達が目を輝かせること、初めての体験をしてほしい	こども園向けに「簡単に取り組める自然に触れ合うプログラム」を季節ごとに提供し、幼児が自然の中でいろいろな気づきを得る機会を創出します。また、こども園や学校に環境学習指導員を派遣し、身近な自然に触れ合う機会を創出します。	○		○		
48	56	戦略4「生物多様性を評価する」	4-1 多様性評価のための指標整備	生きもの調査	夏は川によく行くので、川の中にいる生物を見たり調べたりする機会があると嬉しいです。	本編P58のコラムに記載のとおり、「水のおまわりさん」事業を実施しております。個人でも参加できますのでぜひ御利用ください。また、興津川保全市民会議が主催する「水の生きもの観察会」では、興津川の上流、中流にて水生生物の調査や比較を行い、清流保全について考えるきっかけとしています。これらのイベント等を広く市民の方に伝えるように情報発信を強化していきます。	○				
49	57	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	コンテンツは良いので、もっと広報を強化してほしい。	本パブリックコメントでも、既存の取組を求める意見が多く寄せられ、情報発信の必要性を再認識したところです。環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」の見直しに加え、SNSの活用を含め、情報発信について強化してまいります。			○		
50	58	戦略4「生物多様性を評価する」	4-1 多様性評価のための指標整備	生きもの調査	危ない生物、キノコなどの見分け方を知りたい。	特に外来生物など、危険な生きものについては情報発信を強化していきたいと考えております。キノコに特化することは難しいかもしれませんが、今後の生きもの調査等に合わせて生きもの見分け方についての情報発信を検討しております。	○		○		
51	59	パブリックコメント	その他	サブタイトル	「第2次静岡市生物多様性地域戦略」という名前が難しすぎるので、サブタイトルは単純なものがいいと思う。	市民の人が親しみを感じられるような、分かりやすいサブタイトルとします。		○			
52	60	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	その他	お堀の周りの水について、鯉がもっと見えるようにしてほしい(☺)。他の魚も見たい(☺)。	農業用水などとしての機能も考慮しつつ、多くの市民の皆さんに親しまれるよう、関係課と連携しお堀の保全と活用に取り組んでまいります。			○		
53	66	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	イベント全般	静岡市としてたくさん環境イベントがあると思いますが、普段の生活では目にする機会がありません。様々な世代に伝えるようにSNS等の活用をしていく必要があると思います。	広報紙だけでなく、SNSの活用など、幅広い世代に情報が伝わるよう情報発信を強化していきます。			○		
54	67	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	今後、ハーバリウムやアクセサリーづくりをやってみたい。	昨年度、当課で主催する東海大学連携事業の「渚の植物観察会」において、ハーバリウムづくりを実施しました。今後も市民の方が楽しんで参加できる自然観察会や保全活動を開催してまいりますので、ぜひ御参加ください。			○		
55	67	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	自然体験	でっかい自然公園、庭園の情報を知りたい。	環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて、自然と触れ合う場所の情報を提供していきます。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
56	68	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	環境イベントなどは子ども向けが多い気がしますので、社会人や大学生が参加できるようなイベントがあると良いなど思いました。	本編P54に記載のとおり、「竹林整備隊」による放任竹林の伐採活動や、「河川環境アドプトプログラム」による河川の清掃活動等があります。また、今後は高校生以上を対象とした「生きもの調査員養成講座」の開催を予定しているほか、市民参加による南アルプスユネスコエコパーク区域内における自然植生再生・創出も検討しております。これらの社会人や大学生が取り組める事業について、様々な媒体を活用し、広く市民の方に周知してまいります。	○		○		
57	73	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	「③生きもの調査でふれあう」について、釣り体験など、遊びながら自然・生きものに触れあえる場を設けることで、多くの方(特に子どもに)興味・関心を持ってもらえらると思う。	ご意見の趣旨を踏まえ、保全活動に限らず、自然の中で楽しめる活動についての企画や情報発信に努めてまいります。また、興津川保全市民会議が主催するイベントでは、自然の中での活動(植樹→食事→竹工作)を実施していますので、ぜひ御参加ください。			○		
58	76	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	私が幼少期の頃は、祖母母から竹とんぼつくりや笹ふねを作ってよく遊んでいました。自然とふれあえる機会が多くなると良いと思います。	こども園向けに「簡単に取り組める自然に触れ合うプログラム」を季節ごとに提供し、幼児が自然の中でいろいろな気づきを得る機会を創出します。また、こども園に環境学習指導員を派遣し、身近な自然に触れ合う機会を創出します。	○		○		
59	77	計画全体	説明・用語	その他	SDGsのマークの文字が小さくて見にくい。また、概要版にもSDGsの記載をした方がよいのではないかと。	SDGsの文字が分かるように、SDGsマークの一覧表を掲載します。また、概要版にもSDGsのマークを掲載します。		○			
60	77	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	「池の水全部抜いてみた」「グリル厄介(鉄腕！DASH！！)」に参加してみたい。	市民の方が楽しんで参加できる事業を展開していきます。			○		
61	78	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	イベントの情報だけでなく、身近に自然を守ることができる取組等、個人で活動ができる内容を情報として発信してもらえると協力しようという気持ちになると思いました。	御意見の趣旨を踏まえ、本編P59「方針4-3(1)」の「生物多様性や環境に配慮したライフスタイルの促進」の中に、「個人で簡単に取り組むことができる行動の情報発信」を追記し、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」等にて、簡単にできる取組について情報提供していきます。		○			
62	79	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	写真を撮ると外来や危険などを教えてくれるアプリがあるとよい	アプリの開発は難しいかもしれませんが、活用できるアプリ等についての調査・研究に努めます。			○		
63	95	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	自然体験	自然の中でキャンプできる情報を知りたい	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、アウトドアでの活動に対する需要が高まっております。キャンプや釣り、ハイキング、川遊びなどをきっかけとして、様々な視点から自然環境や環境保全に興味を持っていただければと考えております。御意見の趣旨を踏まえ、本編P53「2-2(1)」の自然の中での活動機会の創出に、「自然と触れ合える場所の情報発信」を追加し、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて、キャンプ場や、川遊びができる場所など、自然と触れ合える場所の情報を提供していきます。		○	○		
64	96	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	日本の国土の7割を占める山岳のうち、4割は放置人工林(スギやヒノキなど)また、国土の4割を占める里地里山は耕作放棄、放置竹林で荒れている。里山の放置竹林対処はボランティアの力では追いつけない。静岡市(静岡県)などの行政がもっと力を入れて対応されることを望みます。	私有地の保全は、一義的には所有者の責任になりますが、例えば放任竹林については、竹害に悩まされている地域を中心に、竹林整備がされています。また、市ではこのような活動を支援しており、活動の持続性が高まるよう、今後も継続した支援を実施するとともに、新たな担い手を育成していくことも考えております。	○				
65	99	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	自然体験	先ず、静岡市民の多くが何らかの活動に参加し豊かな自然の素晴らしさを体感することが大切です。参加を促すことに力を入れるべき。	本編P52「方針2-1(1)」「方針2-2(1)」に記載のとおり、市民のみなさんが気軽に御参加いただける自然観察会や学習会等の企画を検討してまいります。また、実施に当たっては、様々な媒体を活用して、市民のみなさんの御参加を呼びかけてまいります。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
66	99	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	その他	まちなかでふれあうためには身近な小川(ドブ川かもしれないが)を側溝としか見ずに有蓋U字溝にしないなどの配慮・工夫が全庁的に必要と感じています。	治水や交通面での安全性にも配慮しつつ、まちなかで自然と触れ合える河川整備等の可能性を追求してまいります。			○		
67	105	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	静岡市に生息する生き物や外来種について詳しく知ることができる情報媒体があると良いと思います。	環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」の改修を検討しております。生きもの調査調査の結果や、外来種の情報について、より分かりやすい情報発信をしていきます。			○		
68	105	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	若い世代を取り込むため、専用のInstagramがあると皆見てくれるのではないのでしょうか。	若い世代の方にも、静岡市の自然や生きものについて広く知ってもらい、体験してもらうことが重要であると考えております。SNSの活用を含め、若い世代を取り込むための情報発信に努めます。			○		
69	108	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	幼児期等は動物にふれる機会も多くあり、現状のままで良いと思う。高校生ぐらいから自然とふれる機会が減少するので、その世代に向けて何か取組を行ってほしい。	本編P52「方針2-1(1)」等に記載のとおり、市民参加による生きもの調査の実施を検討しております。まず来年度に、調査員養成講座を実施します。他にも、大人が自然に触れ合える機会の創出に取り組んでまいります。	○		○		
70	109	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-1生きものの生息・生育場所を守る	南アルプス	南アルプスの自然について(増澤先生の講演)知りたい	南アルプスに関するイベントなどの情報については、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」や、南アルプス・井川情報発信サイト「南アルプスde深呼吸 南プス」などに掲載してまいりますので、ぜひ御参加ください。			○		
71	117	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	休日に子どもと公園や広場等に出かけると、以前(自分が子どもの頃)より草木、昆虫などを見る機会が少なくなったように感じます。同じ場所に様々な生態系があり、色々な生物が生きていることを子供にも理解してもらい、自然環境について興味関心を持ってもらいたい	こども園向けに「簡単に取り組める自然に触れ合うプログラム」を季節ごとに提供し、幼児が自然の中でいろいろな気づきを得る機会を創出します。また、こども園や学校に環境学習指導員を派遣し、身近な自然に触れ合いながら、環境について学ぶ機会を創出します。	○		○		
72	117	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	子供を対象とした静岡ならではの自然と触れ合うイベントがあれば喜ぶそう。余談ですが、磐田市の竜洋昆虫博物館など以前子供を連れてよく行きました。	本編P53「方針2-2(1)」に記載のとおり、静岡市の自然や特産物など、地域の魅力を生かしたイベントの実施をしていきます。また、あさはた緑地や高山・市民の森など子どもも楽しめる施設の情報も積極的に発信してまいります。	○				
73	119	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	竹の破碎後にできた竹の粉を使って、農学・園芸の役に立たないか。エビデンスのあるデータが少なくぜひ御課でデータ作りをやってほしい。そのためには、学者、実施してくれる農家、竹切りのボランティア等のまとめ役が必要。御課の事業に取り入れてほしい。	本地域戦略と同時期に策定する「静岡市環境教育行動計画」に、御意見の趣旨の役割を市が担うよう定めることを予定しております。また、保全活動を実施している団体に対し、専門家やその分野に詳しい方などを市が紹介するなど、コーディネーターの役割を果たせるよう努めます。御要望がありましたら、ぜひ御相談ください。また、竹チップの有効性についても情報発信していくことを検討します。			○		
74	120	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	まったくの『自然(環境)初心者』の大人でも参加できるイベントがあるといいなと思います。	本編P52「方針2-1(1)」、「方針2-2(1)」に記載のとおり、まちなかや自然の中で気軽に参加できるイベントを実施してまいります。これらのイベントや保全活動の情報、自分でも簡単に取り組めることなど、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」で情報発信していきます。	○				
75	121	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	川や海の清掃活動の場合、拾ったごみの量を競い合う大会のようなものになり、竹林整備の場合、切った竹で最後に流しそうめんなど楽しいイベントとセットに環境イベントを開く	御意見の趣旨を踏まえ、保全活動だけでなく、市民の方が楽しんで参加できるようなイベントとなるよう検討してまいります。			○		
76	123	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	静岡にもクワガタがいるということをアピールし、子どもたちに昆虫の素晴らしさを伝えたい	環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」等を利用し、生きものの情報発信に努めます。また、生きもの調査など、子どもから大人までが参加できる事業を展開します。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
77	129	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	参加してみたい環境イベント 池の水全部抜く的なやつ、巴川の水質調査、みかん、フルーツマラソン、お茶摘み体験、バードウォッチング、果物狩り、イモ掘り、静岡のご当地ラーメン、生しらす・桜えび・などしずまえとオクシズをもっと強調する、里山、子どもと松ぼっくりのおもち作り、三保や紅葉・桜などきれいなデートスポット、ジビエ料理、町の水族館、四季のお花を見るイベント、ご当地おかし、アユのいる川、海をきれいにする	「環境×食」の視点も取り入れ、市民のみなさんが楽しんで参加できる事業を展開していきます。			○		
78	131	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	外来種が多くなる中で、いかに本来の自然を学んでいくべきか、また子どもたちにどう伝えるかを考えなければならぬと思います。 生き物博士(芸能人)など、キーパーソンとなる人を起用して、子どもたちや親が興味を持ってもらうよう、多少インパクトを持たせてもいいのではないのでしょうか。	自然観察会や生きもの調査、講演会等で、マスコミにも取り上げられる著名な方に御指導、御参加いただき、事業を進めております。今後、このような情報の積極的な発信や、広く活躍されている方との連携強化、市民の方が楽しんで参加できる事業展開に努めてまいります。			○		
79	131	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	子どもが継続的に学べるような仕組みを持たせてはどうでしょうか。	本編P56「方針3-2(1)」に記載のとおり、生きもの調査の継続的な実施を検討しております。単年度の参加ではなく、継続して参加することが楽しくなる仕掛けを企画し、継続的に参加できるような取り組みを検討してまいります。	○		○		
80	134	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	自然の中で楽しくアクティビティをやりたい (清掃→食事→サッカーなどの動きを取り入れた遊び)	ご意見の趣旨を踏まえ、保全活動に限らず、自然の中で楽しめる活動についての企画や情報発信に努めてまいります。また、興津川保全市民会議が主催するイベントでは、自然の中での活動(植樹→食事→竹工作)を実施していますので、ぜひ御参加ください。			○		
81	135	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	高低差5500mを500mもしくは1000m単位で区切った自然環境と問題点の提起動画	自然環境と問題提起について、様々な切り口があると思いますが、標高差で分けてみるなど、いつもと異なる視点で環境について考えることも重要であると考えます。市民のみなさんに興味を持ってもらえるような視点、内容からなる動画も含めたコンテンツの作成を検討してまいります。			○		
82	135	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	高校、短大、大学のワンゲル、ハイキング、山岳部等でのコース整備や小学生親子エスコート	本編P55「方針3-1(1)」に記載のとおり、大学、企業、市民活動団体などと連携した自然体験教室を実施していきます。毎年、南アルプスユネスコエコパーク区域内における防鹿柵設置を、市内高校の山岳部員の協力のもと実施しております。これらの活動を継続するとともに、大学の環境活動サークル等とも連携し、自然観察会やイベントにおいて、学生たちの活躍の機会の創出を検討してまいります。	○		○		
83	135	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	その他	市内「ここにしかない自然・風景」100選	静岡市の自然の魅力の新たな発見や発信として、とても良い取り組みだと考えます。ぜひ実現できるよう検討したいと思います。			○		
84	135	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	竹材を使った大型造形物展(札幌雪まつりの竹材版?)	御意見は今後の事業展開の参考とさせていただきます。まずは既存のイベントや事業の中で大型造形物の募集・展示を行うなど、市民の方に興味を持ってもらう取組として検討してまいります。			○		
85	136	計画全体	市政全般	生物多様性全般	今回の戦略(案)は、体系、方針、施策、重点プロジェクトなど、よく考えられており、よくまとまっていると思う。 今後戦略を進める上で、国の戦略にも謳われている「主流化(様々な社会経済活動の中に生物多様性を組み込む)」を、自然豊かな静岡市だからその観点で強力に進めていって欲しい。 そのためには、どうすればできるのかを企業、学校、地域、市民活動団体など、様々な主体、ステークホルダーと話し合い連携して取り組んでもらいたい。	本編P56「方針3-2(2)」に記載のとおり、市民・企業・市民活動団体・地域住民などが連携し、環境活動を推進します。いただいた御意見の趣旨を踏まえ、主体に「学校」を追記します。		○			

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
86	136	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	生物多様性を守るには、行政だけが頑張ってもなかなか進むものではない。市民一人ひとりが世界規模の環境から身近な環境までのことを考え、ライフスタイルを変革し、環境にやさしい生活(経済×社会×環境)をしていかなければならない。「人」を育てる教育、学習、啓発をいかに効果的に行うか。また、その人を指導する側の人材をどう育て、つなげていくかも重要と考える。身近なところでは、子供の親、祖父母などを巻き込むのも一案でないか。また、学校のPTAの会議や研修会での講座、児童クラブでの自然観察会など、いろいろな主体にアプローチしてみてもどうか。	本地域戦略と同時期に策定する「静岡市環境教育行動計画」と合わせ、環境教育の実施だけでなく、静岡市の人材の発掘や活躍の場の創出、連携についても取り組んでまいります。			○		
87	137	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-3身近な緑地の保全	保全活動	植林と併せ、花や畑等、短期的に成果がわかる植物の手入れ等があると参加しやすい様に考えております。	来年度供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)では、体験農園イベントを予定しています。また、ポケットパークや公園の緑化、地域の花壇づくりなど、市民のみなさんによるボランティア活動などにより行っています。これらの気軽に参加できる情報を環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて集約し、情報発信してまいります。			○		
88	139	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	自然体験	生物の多様性を理解するためには、実際に見て触れてその多様さを実感すること、生き物が私たちも含め「繋がっている」ことを認識することだと考えます。今回の計画にあるように、多様さや繋がりを実感できるような体験、イベント、ボランティア活動など気軽に参加できる活動を多くしたいとの考えには賛成します。毎週末どこかで「多様性」を感じられる何らかのイベントが実施されるようになると良いと思います。	来年度供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)におけるイベントも含め、市民のみなさんが気軽にご参加いただける自然観察会や学習会等の企画を検討してまいります。また、現時点においても、南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家や高山・市民の森、日本平動物園などで「生物多様性」を感じることでできる様々なイベントが開催されており、他にも市内各地で市民団体が主催する自然観察会や保全活動が実施されております。今後、それらのイベント情報を集約し、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて情報発信してまいります。			○		
89	141	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	里地里山に住んで、活動したい人を呼び込む取組をしたらどうでしょうか。土地や家屋などを安く提供して、その代わり生産や情報発信をしてもらえる若い人を多く募集し定住してもらおう。	里地里山に移住し、活動されている方もいらっしゃいますので、このような方々とも連携して、東京有楽町に設置した静岡市移住支援センターにおける移住相談業務等を進めていきたいと考えております。			○		
90	142	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	自然体験イベント+清掃活動をやっていったら、遊びながら環境も守れていいかなと思うので、ぜひ市でもやってほしいです。自分たちの活動にも取り入れていきたいです。	ご意見の趣旨を踏まえ、保全活動に限らず、自然の中で楽しめる活動についての企画や情報発信に努めてまいります。			○		
91	143	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	里地里山	身近な山の散策イベントで、散策しながら様々な動植物の生態や、里山の持続性の懸念について解説をしていただく。	本編P52「方針2-1(1)」、「方針2-2(1)」で記載のとおり、市民活動団体等と連携した、自然体験などの環境学習機会を提供していきます。また、来年度に供用開始予定の麻機遊水地第一工区においても、解説をしながらの自然観察会等を開催予定です。自然観察会やイベント等の情報については、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」等を通して広く周知していきますので、ぜひ御参加ください。	○		○		
92	143	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	里地里山	市内で市街地からほど近い山のハイキングマップ集があると良いなと思っています。そこに、動植物や地形の特徴が書いてあり、知りながら楽しく歩けるような冊子があると嬉しいです。(県外出身ですが、知れば知るほど興味深い都市だと思いつつ生活しています)	静岡市では、身近なハイキングコースにおける「いきもの散策マップ」を27コース作成しました。環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」に掲載しており、環境創造課の窓口でも配布しております。また、スポーツ振興課では「みどりの道」というハイキングコース集があります。スポーツ振興課の窓口で配布しているほか、ホームページでもご覧いただけます。ぜひハイキングの際に御活用ください。					○
93	145	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	里地里山	裏山に繁茂する竹林は、安全と思っていましたが、竹は根が浅く地崩れがあるととても危険との事。どんどん増えていく竹林をどうしたらよいかを住民として取り組んでいく事が大切だと思います。それを学べる場所、イベント等があればいいと思います。	本編P54「方針2-2(2)」に記載のとおり、環境保全に参加しやすい体制を整備していきます。昨年度より、放任竹林の保全活動に興味のある人が、実際に伐採活動に参加し、体験できる「竹林整備隊」を実施しています。放任竹林対策に関する講座等も実施しておりますので、ぜひ御参加ください。また、これらの情報について、多くの人の目に留まるよう、情報発信の強化にも努めてまいります。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
94	146	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	学校内の放任竹林などを子どもが体験学習の場(タケノコ掘り、外来植物駆除、つるを採ってかごやなべしき製作等)として使えるよう学校とボランティアと地権者との橋渡しをしてほしい	放任竹林は地域の方の御協力なしでは解決することができません。市が橋渡しをすることで学校、地域、ボランティア、行政が一体となり、対策も前に進むと考えますので、ぜひみなさんの御協力をよろしくお願いいたします。また、来年度から放任竹林対策の活動を行う団体が実施する環境教育活動を支援していきますので、ぜひ御連絡ください。			○		
95	147	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	自然とふれあいながらのウォーキングイベント	各課で実施されているイベントや、市民団体で実施されているイベントの情報を集約し、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」等にて情報発信してまいります。ぜひ多くのイベントに御参加ください。			○		
96	147	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	保全活動	コロナ禍でむずかしいですが、各地域(自治体毎)での環境活動の種類を増やす事	すでに多くの地域で様々な環境活動が実施されておりますが、これらの活動が他地域にも広がるように、活動内容の情報発信や、活動団体の交流機会の創出や、情報共有に努めてまいります。			○		
97	147	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	地域に環境促進リーダーを養成して市が認定する	本編P55「方針3-1(1)」に記載のとおり、市では「環境大学」を開催し、身の回りの環境問題の解決に向かって主体的に取組む環境学習リーダーの育成を実施しております。環境大学の卒業生が地域で活躍できるよう、関係課と連携して取り組んでまいります。	○		○		
98	148	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	こども園の環境学習指導員の派遣は是非お願ひしたいです。自然豊かな土地に住んでいますが、実際に山と一緒に足を踏み入れ、木の名前やキノコの名前など、山の歩き方などをプロの方に教わる機会が幼少期から身近にあると素晴らしいと思います。	今後も環境学習指導員を派遣し、幼児が自然の中でいろいろな気づきを得る機会を創出します。ぜひ、環境学習指導員の派遣事業を御利用ください。	○		○		
99	149	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	その他	各地区の活動状況を広報したらどうか	本編P54「方針2-2(2)」に掲載のとおり、各市民団体の活動内容を環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて情報発信していきます。また、しぜんたんけんてちょう以外でも、多くの方を知っていただくため、広報紙や様々な媒体、イベント等での発信など、情報提供を強化していきます。	○		○		
100	150	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	自然体験	駿府城公園内に自然館や野草市場など子どもが集まれる常設ハウスをつくってほしいです。県外や他市から来た子どもを気軽に連れて行く場所がほしい。子どもが子どもに“おもてなし”できる場所がほしい。	来年度供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)は市外からの集客も視野に入れた施設として整備しております。子どもたちが自然と触れ合えるだけでなく、センターハウス内であさはた地区の自然の魅力を発信できるよう計画しています。			○		
101	151	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	子どもと一緒に参加できる体験型のイベントがあるとうれしいです。	ご意見の趣旨を踏まえ、保全活動に限らず、自然の中で楽しめる活動についての企画や情報発信に努めてまいります。また、興津川保全市民会議が主催するイベントでは、自然の中での活動(植樹→食事→竹工作)を実施していますので、ぜひ御参加ください。			○		
102	151	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	学校の授業の中でも環境を学べる機会があると子ども達の印象に残るのかなと感じます。	本地域戦略と同時期に策定する「静岡市環境教育行動計画」と合わせ、学校教育の現場とも連携し、子どもたちが自然の中で学習できる機会を創出していきます。			○		
103	152	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	地域のおじいさん、おばあさん、おじさん、おばさんと一緒に、子ども達が自然物を使った遊びを教えてもらったり、一緒に関わりをもって遊んだりして、静岡・地域の自然に親しむ。	今後も環境学習指導員を派遣し、子どもたちが自然の中でいろいろな気づきを得る機会を創出します。また、来年度から、放任竹林対策に取り組まれている方が行う環境教育活動に対し、支援を開始することを予定しています。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
104	152	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	静岡に住んでいる生きものを知り、興味をもつきっかけを作る。(水槽などで見せてもらう)	本編P52「方針2-1(1)」「方針2-2(1)」に記載のとおり、市民の皆さんが気軽に御参加いただける自然観察会や学習会等の企画を検討してまいります。また、実施に当たっては、様々な媒体を活用して、市民のみなさんの御参加を呼びかけてまいります。	○				
105	157	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	環境教育	小、中、高校の授業などで自然についての講義や、実際に山や海などに出て自然にふれあう課外授業などがあると楽しいと思う	本地域戦略と同時期に策定する「静岡市環境教育行動計画」と合わせ、学校教育の現場とも連携し、子どもたちが自然の中で学習できる機会を創出していきます。			○		
106	159	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	池の水を全部抜く大作戦 静岡市編があれば参加してみたい	市民の方が楽しんで参加できる事業を展開していきます。			○		
107	160	計画全体	生物多様性全般	生物多様性全般	生物多様性の重要性について、みんなが学べて行動出来るきっかけになれば、と思います。地球環境待たなしですね。まず、家庭、人の意識から。私も学び行動していきたいです。	「生物多様性」を幅広く市民の方に知ってもらい、豊かな自然が将来にわたって持続されるよう、市民の方が楽しんでイベントや保全活動に参加できる事業を展開していきます。	○				
108	163	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	アウトドア体験(キャンプや登山など)を通して自然の豊かさはもちろんゴミの集め方やエコな活動など、人間と自然の上手な共存の仕方などをイベントで学ぶことができたら楽しそうだなと思います。	アウトドアでのアクティビティをきっかけとして、生物多様性に興味を持ってもらえるような企画を検討してまいります。			○		
109	169	パブリックコメント	その他	その他	「生物多様性」地域戦略といっても、環境問題に比べわかりにくいし、敷居が高く感じられます。もっと、多くの人々に知ってもらうためにはどうしたらいいのか、と今回のこのパブリックコメントを通じて考えました。とてもいい機会でした。	「生物多様性」を幅広く市民の方に知ってもらい、豊かな自然が将来にわたって持続されるよう、市民の方が楽しんでイベントや保全活動に参加できる事業を展開していきますので、ぜひ御協力ください。また、「生物多様性」を分かりやすくするため、本地域戦略の愛称とサブタイトルを設定します。					○
110	174	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	市民と協働して行える環境イベント(親しみやすい内容) ⇒ビオトープの作成体験	中島浄化センターにビオトープを併設しているほか、来年度共用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)はビオトープ的要素も取り入れた整備をしております。今後、これらを活用した環境教育や保全活動等を検討してまいります。			○		
111	174	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	イベント全般	市民と協働して行える環境イベント(親しみやすい内容) ⇒どんぐりごまや竹とんぼなど、自然の植物を取り入れたエコ遊び体験	こども園向けに「簡単に取り組める自然に触れ合うプログラム」を季節ごとに提供し、幼児が自然の中でいろいろな気づきを得る機会を創出します。また、来年度から、放任竹林対策に取り組まれている方が行う環境教育活動に対し、支援を開始することを予定しています。	○				
112	174	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	イベント全般	市民と協働して行える環境イベント(親しみやすい内容) ⇒水族館や動物園などで生きものを通じて環境問題の現状を知る事のできるツアー	本編P55「方針3-1(1)」に記載のとおり、生きものとのふれあいイベントの開催を行います。生きものや自然に触れ合うことで、環境問題について考えるきっかけの創出に取り組んでまいります。また、水族館や動物園での環境問題に関するイベントについても情報発信していきます。	○		○		
113	175	戦略3「活動を継続する」	3-1幼児期からの環境教育	自然体験	幼児期から様々な場所で、方法で、様々な自然や生きものとのふれあうことは、現在大きく欠けていることで、今後とても必要なことと思います。本市は市街地はもちろん、オクシズ、南アルプスまでと貴重なフィールドが豊富なので、活用を期待しています。	静岡の強みである身近な自然を活かし、幼児期からの環境教育に取り組んでまいります。また、オクシズや南アルプスのフィールドを活用することで、静岡市に対する地域を誇りに思う気持ちを醸成します。	○		○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
114	179	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	生きものとふれあえるイベントや、施設をつくると良いと思います。例えば「SHIZOO」みたいな生きものとふれあえる施設をつくり、市民の方に来ていただければ、市民が自然や生きものと触れ合える機会も増えると思います。	本編P52「方針2-1(1)」、「方針2-2(2)」に記載のとおり、市民の方が生きものや自然を身近に感じることができる機会を創出していきます。また、来年度供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)は、自然を感じることのできる場所であり、イベントも開催予定ですので、ぜひお出かけください。	○				
115	181	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-3身近な緑地の保全	保全活動	北部図書館のそばにある水辺の散策路について、以前はよく手入れされていて、美しく気持ちのよい水辺でしたが、このところ荒れている気がします。市がコーディネートして、ボランティアグループなどつくてはどうでしょう。	桜づつみ緑地における自然観察会や学習会の開催など、まずは市民の方に興味を持ってもらい、保全活動の機運醸成に向けた取組について検討してまいります。			○		
116	183	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	私は環境問題、とりわけ気候変動に関心があるので、こちらも大いに関わりがあると思います意見送らせていただきます。生物多様性を守っていくための活動は、一部の大人だけではいけませんし、子供に伝えるだけでも足りないと思います。全ての世代にこの豊かな自然環境を守っていく必要があることを伝えて、協力していくことを目指したいです。私は子育て世代ですが、小中学生の様に外に出かけて生き物を観察するなどの活動にはまだ参加できるほど子供が大きありません。しかし、環境保護には関心があります。そういう場合、オンラインで自然保護活動がわかったり、参加できる機会があるととても嬉しいと思うのです。	コロナ禍で、ウェブ会議などが一般化してまいりました。誰もが気軽に参加できるよう、ウェブを活用した講演会や自然観察会、学習会の可能性について検討してまいります。			○		
117	183	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	情報収集もしたいですし、環境保全へ関わりたい場合、活動されている人とオンラインで話せる機会ですとか、情報発信を市民を巻き込むなどするとさらに活動が広がると思います。	すでに活動されている方にご協力いただき、自然観察会や学習会などを開催することを考えています。また、ウェブを活用しての講演会や自然観察会、学習会の可能性について検討してまいります。			○		
118	183	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	質問でsns利用について触れていましたが、市の職員だけでなく市民も参加できるというとおもいます。	環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」において、活動情報やイベント情報、ボランティア募集情報など、市民の皆さんからの情報発信機能の強化についても検討してまいります。			○		
119	183	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	(意見番号118が)難しければ様々な世代に、関心ある、ない幅広くインタビューするのもいいと思います。とくに関心のない人へのインタビューは、関心のある人を増やすチャンスになると思います。	本地域戦略の策定にあたり、「生物多様性」に関する市民意識調査を行い、約1,500人の方から御回答いただきました。質問内容や選択肢によっては、これまで生物多様性を知らなかった人への周知につながったと感じました。今後も引き続きアンケート等をおして、生物多様性に関心のない方に向けても情報発信してまいります。			○		
120	184	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-1生きものの生息・生育場所を守る	自然と触れ合う場所	生きものや植物、昆虫、鳥、動物などがのびのびと生き活動する場所と、その姿を見れる設備があったら嬉しいです。	本編P48「方針1-1(1)」に記載のとおり、里地里山の生きものの生息・生育場所を保全していきます。特に、来年度の供用開始を予定しているあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)は、御意見の趣旨を踏まえた整備をしており、今後、整備を予定している鯉ヶ池周辺についても同様の視点をもって計画してまいります。	○		○		
121	185	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	通っている学校や身近な地域を見渡しどんな生き物がいるのか興味を持って過ごせる様な子ども達になってほしい。大人の方々の捨て方、姿勢はどうあるべきでしょう。	身近な場所に多くの生きものがあることに気づききっかけとして、「市民参加の生きもの調査」を検討しております。子どもたちの参加だけでなく、大人の方も楽しんで参加できる仕組みとし、今一度環境問題について考えるきっかけを提供していきます。			○		
122	185	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	イベント全般	自ら進んで参加できるイベント？があればよい	本編P52「方針2-1(1)」、「方針2-2(1)」に記載のとおり、自然を身近に感じることのできる自然体験等の環境学習会の機会を提供していきます。実施内容につきまして、市民の方が楽しんで参加できる企画を検討してまいります。	○				

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
123	186	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	地元の珍しい生きものや場所等を知りたい。見学や広報等がされるといいと思います。各種研究機関や企業等と連携した施設や場所の見学や体験、調査等に参加したいです。	御意見の趣旨を踏まえた見学会や自然観察会の開催を検討してまいります。また、実施の際には、積極的に情報発信してまいりますので、ぜひ御参加ください。			○		
124	187	その他	その他	その他	現在は遊水地にメダカは生息していないと思います。すべてカダヤシだと思いましたが、再度ご確認ください。	平成29年度の調査では、メダカが確認されています。また、今後も市民参加の生きもの調査等により、生息状況を確認していくことも考えています。			○		
125	187	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-1 生きものの生息・生育場所を守る	その他	OP44 土木の現場に保全生態学の知識を持つ人材を採用 公共事業の計画・実施において外から意見をするだけでなく、土木の現場にも保全生態学の知識のある人材を入れることによって、開発の最前線で救えるもの、防げることがあるのではないかと思います。	例えば河川整備については、学識経験者の意見を踏まえた多自然川づくりの計画を作成し、計画に基づいた事業を実施しており、あさはた緑地(麻機遊水地第一工区)の整備については、計画段階から学識経験者や専門家と連携してきました。都市局、建設局等の各局で、それぞれの施策に合わせて専門家と連携しながら事業を進めております。また、そこで培った経験や知識を組織として蓄積し、公共工事をはじめ各種行政運営にあたっています。	○				
126	187	戦略3「活動を継続する」	3-1 幼児期からの環境教育	環境教育	OP62 校庭を環境学習のフィールドとして適切に管理することを提案します。 P37等に「幼少期から日常的に自然や生きものに触れる機会を提供することが重要です。」とあるように、環境教育は、特別な日に指導員が行ったり、親が休日に連れて行って体験させることだけでなく、日常の生活の中で常に感じとついでいける環境をすべての子どもの一番身近な場所に整えてあげることが大切だと思います。小学生にとって教科書で習う草木や生きものが学校内にいたらどんなにワクワク充実した授業になることでしょうか。園庭が狭かったりなかったりする幼保園にとっても、毎日のお散歩で訪れる近隣の小学校の校庭はとても魅力的で重要な役目を果たしています。一番身近で大切な環境学習のフィールドである校庭を適正に管理できる仕組みを作っていただけならと思います。 校庭点検 ■学校の樹木は健全ですか？ 造園屋さんに頼む予算がないという理由で、不適切な剪定をしまして木本来の姿を失っている例を多く見かけます。せめて、用務員さんが専門家の講習を受けられるようにできないでしょうか。 ■季節の生きもの探しができる場所がありますか？ きれいを求めるあまり、行き過ぎた管理をしてしまい、いざ虫を探そうとしても、その様みが失われてしまっていて見つけることができないことがあります。 ■除草剤を使っていますか？ 子どもが学校にいる時に除草剤を使っている学校もあります。 ■昔流行ったビオトープ池は今どうなっていますか？ みんなで整備すれば、保全活動の場所にもなります。	校庭や園庭でのビオトープや、花壇、樹木の管理や活用方法について、専門家に相談できる体制を検討します。また、フィールドを有効活用している事例など、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」にて情報発信してまいります。			○		
127	188	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-3 外来種の把握・防除	環境教育	人の移動は自然に影響を与えます。ステキな場所はそっと見守るにとどめるのが良いと思えました。ただ、外来種の侵入や環境の変化などの調査の際に徹底して外の物が入り込まないように対処していることを教わったり体験してみたいと思えました。	リーディングプロジェクトとして、生きもの調査員養成講座を実施し、在来種や外来種について、専門家の先生を交えて学習する予定です。来年度からの開催を予定しておりますので、生きもの調査員養成講座にぜひ御参加ください。	○		○		
128	188	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2 自然の中での健康的な活動機会	保全活動	直結しにくいかもしれませんが、外からの移住者やリターン者の受け入れも自然環境の担い手を増やすきっかけとしてであると嬉しいのです。	里地里山に移住し、活動されている方もいらっしゃいますので、このような方々とも連携して、東京有楽町に設置した静岡市移住支援センターにおける移住相談業務等を進めていきたいと考えております。			○		

意見番号	意見者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画に盛り込み済	B:計画に反映する	C:今後の取組の参考	D:計画に反映できない	E:その他
129	189	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-1生きものの生息・生育場所を守る	保全活動	僕は、生き物を大切に扱って欲しいです。わけは、生き物も市民の1人なのに、生き物のことを考えず沢山建物を作り生き物の、住みかは奪われているからです。建物を作る事は、ダメとは言いませんが作るなら生き物にもプラスになるようにしてほしいです。なので市には、野生生物の保全に、力を注いでほしいです。	大きな建物を建てる時には、敷地内の何%は植物を植えて、緑化しましょうという決まりがあります。生きものが休憩したり、隠れたりできる場所が守られるよう、建築予定の方にお願いしていきます。 (都市計画域内において、一定規模以上の商業施設や工場、事業所の設置の際の緑化基準を設けており、引き続き指導等をしていきます。)	○				
130	191	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	紙ストローは使い心地等が良くないため、新たな素材で環境に配慮した製品があるとよい。	現在、「紙ストロー」以外にも、「木のストロー」や「竹のストロー」なども開発、販売されております。ストローをきっかけとして、環境にやさしい製品を選択する消費者が増えることで、静岡市生物多様性の保全につながると考えております。環境に関する情報について、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」等で情報発信してまいります。			○		
131	191	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-3外来種の把握・防除	外来種	外来生物の駆除をやってほしい。	静岡市に生息する特定外来生物について、調査による早期発見、早期駆除により生息域が拡大しないよう取り組んでまいります。今後は市民の皆さんにも参加を呼びかけ、防除活動を実施していく予定ですので、ぜひ御参加ください。	○				
132	192	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	生物多様性という言葉自体が知られていないのが現状だと思います。色々な手段で認知度向上を目指してください。ひと昔前にはやった「〇〇検定」をネット上でやる。生物多様性ポスターコンクール、生物多様性作文コンクールなど。	御意見の趣旨を踏まえ、各事業の中で認知度向上につながるような取り組みを検討してまいります。生きものや自然の魅力の再発見も兼ねて、「自然・生きもの100選」などのコンクールも検討してまいります。また、事業実施につきましては、広く市民の方に周知するよう発信方法を検討いたします。実施の際にはぜひ御参加ください。			○		
133	193	戦略4「生物多様性を評価する」	4-3 行動(ライフスタイル)の転換	理解促進・啓発活動	生物多様性という言葉が難しいのでPRしてほしい	生物多様性という言葉の周知の難しさは課題であると感じています。今回パブリックコメントの中で、サブタイトルの募集をさせていただきました。市民の方に分かりやすいサブタイトルとすることで、皆さんに少しでも興味を持っていただけたらと考えております。また、「生物多様性」という言葉だけではなく、「自然や生きものと触れ合う」など、イベントや事業の中で分かりやすい説明を入れるよう努めてまいります。			○		
134	194	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-1まちなかでの自然ふれあい	イベント全般	現地まで行くことを基本線として考えると、駐車場や交通機関の問題(便数、料金)など、参加がなかなか難しいことが考えられますので、身近なところでできることや、現地に行かなくてもVRなどで体験できるメニューなどもあればさらに良いと思います。	本編P52「方針2-1(1)」に記載のとおり、身近なところで、気軽に参加できる自然観察会や学習会などの企画を検討してまいります。また、直ちにVRを整備する予定はありませんが、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」を活用した、疑似体験の実現可能性について研究してまいります。	○		○		
135	195	戦略3「活動を継続する」	3-2 生物多様性情報の共有	理解促進・啓発活動	自分から探さなくても自然と目に入ってしまうような形で、自然や生物に関する情報を発信できたら多くの人が興味を持てるようになるかなと思います。(Twitterとかを活用したり...)	情報発信については重要な課題であると考えます。興味のある方が検索するだけでなく、普段は自然に興味がない方にも情報が届き、自然を意識してもらえるような情報発信の方法を検討してまいります。			○		
136	196	戦略2「活動のきっかけをつくる」	2-2自然の中での健康的な活動機会	自然体験	アウトドアが流行しているので、キャンプや釣り等を通じて自然を体験できるイベントがあれば興味がわく人が多いのではないかと思います。	アウトドアでのアクティビティをきっかけとして、生物多様性に興味を持ってもらえるような企画を検討してまいります。			○		
137	197	戦略1「生息・生育場所を守る」	1-2自然と居住の境界の環境保全	里地里山	身近な里地里山に生息する様々な生き物と、その生きものの生育環境が抱える課題について、現地でガイドが解説してくれるイベントがあったら子どもも参加してみたいです。	本編P52「方針2-1(1)」、「方針2-2(1)」に記載のとおり、市民活動団体等と連携した、自然体験などの環境学習機会を提供していきます。また、来年度に供用開始予定のあさはた緑地(麻機遊水地第一工区)においても、解説をしながらの自然観察会等を開催予定です。自然観察会やイベント等の情報については、環境情報サイト「しぜんたんけんてちょう」等を通して広く周知していきますので、ぜひ御参加ください。	○				

意見 番号	意見 者No.	大項目	中項目	小項目	意見	ご意見に対する市の考え方	A:計画 に盛り込 み済	B:計画 に反映 する	C:今後 の取組 の参考	D:計画 に反映で きない	E:その他
138	198	戦略1「生息・生育 場所を守る」	1-2自然と居住の境 界の環境保全	里地里山	市民の力で100%ボランティアで山々の再生、放置杉林の伐採をし、もとの多種多様な 樹木のある本来の山々を造りだす。本当の市民の山々を！	市では、放任竹林対策を実施している市民活動団体に、補助金 の交付や消耗品の支給、竹破碎機の貸し出しを実施しています。 また、森林環境アドプト事業により、企業、団体の皆様の御協力を いただいで、森林整備を実施しております。引き続き、これらの 取組ついで、実施してまいります。			○		
							46	12	98	0	8